



救急車の中ではどんなことをしているの？ ～救命率向上を目指して～

年々、増加する救急件数。合併後の10年間で、約3割増加し、年間1万4,000件を超えています。また、法律の改正に伴って、救急救命士による傷病者への救急処置の範囲も拡大され、救急現場で赤色回転灯を回して止まっている救急車の中では、傷病者の救命率を向上させるために、救急救命士による救命活動が行われています。

ねえねえ、シロモチくん。この前、近所に来た救急車が患者さんを乗せてもすぐに出発しなかったけど、どうしてなの？

救急車の中では、救急隊長が患者さんや付き添いの人から、何時頃から気分が悪くなったとか、ちゃんと会話ができるかなどを聞き取ったり、体内の酸素の量や血圧、心電図を測定したりして患者さんの状態を把握しているんだ。

どうしてそんなことするの？

患者さんの状態によっては、救急隊員が酸素を投与したり、止血をしたりする必要があるからなんだ。

患者さんの状態に応じて、応急処置もしているんだね。

例えば、心臓の病気が疑われる場合は、一般的な心電図よりも詳しく測定できる12誘導心電図*1という装置で心電図を測り、その結果を病院に送って、医師の目で

患者さんの状態を確認してもらうこともできるんだ。

救急車の中で、医師の判断を受けることもできるんだね。

そうなんだよ。救急隊員はタブレット端末を使って、患者さんの血圧や脈拍などの情報を病院に送ったり、病院から患者さんの受け入れ情報を送ってもらうこともできるんだ。



タブレット端末